風俗傳
へ遠13
1959
1

13 1959 1-3

男女風の傳

古人曰

卜部長上

源太賢

平興貞

浪華書林

向井文興堂板行

但馬 湯嶋

男女風傳序

蕭々たる春雨の夕一炉の茶火に
焦湯の声のたぎる折から旅
枕に入来る人に世談やありて
一言我出して我に入せしむ。これを
聞けは神儒佛の世にあやまれる

もし正しく或は保生養成の日用
小益ありて然あつて名付るゝ男女
風の情と云ふ嗚呼聖教ハ早き
るゝ事なれは獨りの淫ー濫
淫の欲をも共に成とゝく教と為ハ
孔夫子の道まあるすや皆く周風

ハ六義の一ホして淫詩ヲ採所
正風ハ国ヲ安風ハ民ヲ俗民の善
悪ヲ以考く政治の得失を
知るとかも夫三籟ハ形なくして
物ヲ觸く事なる事柳のなびく
ハ風の為すゝ巖松の瑟の音も皆

逸人は耳目を悅す況や人を靈
物を同巷郊野乃俚言をもこの
要を取て編集し齊家の媒とす為
ハ多の士を生ず初る風の傳也
ふもなし

桃江舍漁舟書

男女風傳序

花洛隱士中山氏幸來著
中年辭止戈家道遠于江湖
間常嘗謠曲又尋滑稽無尚
好遊必集于編于是自髫男女
風傳爲顏之爲書大抵世

之俗語以備誠忘心之用夫惟
風を六義の一に民俗歌謠の詩
や謂之風教以下之化之云
云もの云又足以感人如物因風之
動以之聲而之聲又見中以動物
や豈哉只風俗乎蓋如洪書曰

雖出于古俚云然非不足雜
史之類小心而弱之何益補於世
乎所謂遺子黃金滿籯ふ如
教子一經於是幸東家嗣中
宮幸人子憂前大人之遺書朽
于櫃中裏梓以欲行世而乎求

序然莫口兒豈苗之因辭再
三為強ふ詩故忘志因陋亭冠
之巻端に立而
元文巳未二月望浪華吉益梅郷書

吉益氏蔵書

自序

高山之麓の塵泥より泯江
始盈觴入巷無底と山谷が云し
たり　蚤の息天に通じ空吹風乃
傳て角覺たる品〻志有んや
けたまりやとそ心ハ神や知

石らんまづくしの巻はなり

皇都　幸来

男女風儀傳上巻

目録

栗嶋　男ありけり

山上桑　起請文の反古

山伏　役行者の前生

宗祖　雷い祈禱場の仕合

但馬　伊屋老有閑　湯嶋

上手　猶正成時代違
河豚　三人連死手九
藥師　天竺流乃医者
延壽院　打解し若後家
理九高下　乞食九賢人

娼風九傳上巻

○ 栗嶋

いまゝぢの九はまで見ることしゞ今ハ志ゝむ志ゝい
ありげなる男の四十余ゝ本綿縞をうけて珍
しゝて来ゝしゝ後い乙伏乃下ゝや紋ん縞い輪ゝ
袈裟とゝのゝ珍い様子をうて吟ゝつゝ人ゝ
たゝしげなる姉ゝとはけ何の対代進お云初ゝ
紀九名章九郎加太栗島大乃神とゝ奉ハ天照大神
乃第三ごんちの姫宮ゝてゝゝゝゝ位吉太的神乃

ここに行ゑせの帯下の病すて海をよろこ
陽神疎ませのひ紀列栗島に捨ゝ給ひ謂
ゆへに帯下の病を守ゝ給ふことなるの乃
ごとく人をこのうあるて愚なる婦女を惑を
抑栗嶋大明神と奉れいてゝ皇孫の
外祖ゝ皇彦霊ゝのたまふ彦名命にて
陽神にてやはまことふ日本医業の祖神京師
松原通西の洞院の西南の角に五条乃天神と崇
祀神社なりと天子御脳のけがれやうに
とひさせのとこのやう是法の病を療させの

に捨給ひ遺法によりて今を無年の話
分乃夜に當社の宮人神前にて餅白米を煮て
例のごとくに帯下のみこのごとくに神徳あり
ゝ其本にて祈ゝ感應深守ゝ給ひ
古ゝ小嶋手ゝ云処に紙産中比今乃牧田の地に
移奉ると紀列志に見ゆ

○山工系

近世山上にて大峯に信心の人川に
入行をなし隙うけ檜笠金剛杖を佐て志物知

往生を大のく浄土宗とやいふなるべし
善光大師のこゝろ一枚起請とハ大ちびゝ
念佛と信ぜん人へたゝひ一代乃法をよく〳〵
ゝを一文不知乃愚鈍の身ゝなりて知者ハ
ひとせぞたゞ一向に念佛せよと書き〳〵起請をゝ
ゝ修驗ハ宗に身命をとゝげ〳〵牧あのでゝ人をゝ
もくしるなゝぞ浄土宗信心堅固乃人とゝやいふべ
ゝの宗旨にすゝそ佛土も弥陀ハ佛国ハ
方極楽世界に業師ハ東方しやうるゝ世界地ぞゝハ
のゝゝぞせんなゝのゝハ球に佛ハ山節大切なる金色

紫磨黄金ハ膚けゝのゝるゝ手と少べ二道のゝる
心ゝゝハ佛中ゝあゝかゝゝやゝゝきん

○山伏

其氣質ハうけるゝことゝゝゝゝるゝあゝるゝとゝ聖の
詞十人よきゝ十心なきゝゝ第千万人寄ゝゝゝ習ほゝ
きゝハ斎料乞山伏のゝくさ〳〵ゝゝゝゝいちゝゝまゝ
宗祖ハ役の行者なり修驗ハ宗旨ハ真言秘密
奥義ハ大日如来ハ佛ハ宗とゝやゝ盗傷記と見きゝ役乃
優婆塞ハ雞足山迦葉なる者ハ變身なゝ我朝ゝ出ゝ

を樹列　其面山の滝穴に入て乾樹大士に逢一所部
乃大日秘密灌頂を相承をと又釈尊寂滅道場に
おゐて遺教の説法の迦葉尊者宝珠菩薩の秘
を現じて授願に曰衆生を度せんが為の故に我東去
る往んぢの授願を化して日本に来る目城
所有の霊峯にて大日灌頂の秘法を修し
一切衆生を利をこゝをきんのうむそくれうのとして
三乗に行者の碑の文有不断煩悩者入於遍知院不
論迷悟起菩薩十地と云心に迷ひ悟る凡夫も悟る
聖人を差別なく此一乗の峯に入きゝ遍知院に入菩

薩の十地を超て妙覚に住ることを疑を大こゝろ乃
縁起に曰役小角ゆゑ浄土人界に入おゐて仏界と
書あり最山伏の魔模とする処なるべきいと伏
い背仏あり仏ゐいちづる不出ま千万三四人を仏
ひ本山も當山をわるなる役の行者の初尾とのく
しと行者信心不乏代の家をといそぐ案内のこと
中ゝまでそこの女人とこと見えまゝ理不尽に内へもは
いる兒芸の書森と見えるけてい実と尊と見とゆく
旋山伏と見えて長髪とおそこえ婦人などこと
たとこゝこのこゝ　やうこゝてまの内とむさぐる

やらを家にそい必詞ぎちと取さんぐ悪口しいさまれ
螺乃貝とひつこ塔くちぐ云結道断の所為佛ま
いあ〜で合ぬ歌やしちりいぐろ人毎ま垢悪いまろてす
ものを其頸有て幕て法度と云渡ろくとこのやゆ臣
ろ月ひざろい行者ふくちとあちゆうく〜

○宗祖

四大師をはじめいろ〜祖師達発のい云をかろ
器用い文筆をぐき絵とのう佛と作天竺震旦ま
で行法を傳へ〜人を有至極憎ま大き知恵ろく

神祇とこのびみ〜釈迦法ーはまりずのさのひとをぐど
今乃世までもかく人をぐはさろいべうろ故みや
四十二章経ー釈迦れ目若法い忘れ念ー念ろ〜行の
行を行ろ〜云云乃書と言ろ〜を像れ像と像とを
會ちろ者い近く遂ま者い遠ーのあびひ知て理
のろれやろふ奥かどうあれるれ者ろう統き
しゆ石乃ろ〜ーと三年とろあ〜ろ〜みやみろる
せ〜業ゆ也ぐ止〜ちぐろみや涅盤経ふ四十九年れ説
法一字を説ぐと心城尤嘉督直義
かりとふろ説わく法れ理ーろあ也人や狂迷ろん

新拾遺集に入る慧上人

佛法をもとめて塩手をあいぶくみるあまの袖

おのく小町

佛法心をもとめて塩手をあいぶくみるあまの袖

一休和尚

佛法心をなぐさむるもあるべきなのてをはり

佛法片使宜我等を委不存

右の三首は対代ちがひに同じ心乃自分自筆

にて三ぶく新にて上るべしもあるべきとあるべ

より受ゆ又一休

偽て地獄ふるわなくばなるべき釈迦へふせん

又一休の云葉

一代の蔵経は皆人を痛めんためあるべし釈迦及や

いろ〳〵の塵を云をはらそれのそうきとたぐるべよう

なの問をうらやや

和尚の自筆みて名筆集板本に有又夢想国師

〳〵〳〵説とを説ぬ云れくと受〳〵て受人をそ〳〵

はお霊の五部を示し云者有て軽口咄せ〳〵万おう〳〵

これ云いづる中に却ておいうらやうとばけをくい

金銀の入用格別なり阿弥陀如来九品の極楽とう〳〵

ら〳〵年ろあて地ごくとなげき方十分れ知入
ましてこふ死でも腑年のよれみ〳〵云しげふさるゆそ
う正法念経ゑ閻羅獄率実れ有情ゑはること衆
生妄業のカと以てれ故ゑ見えと唯有五逆誹謗正法の
経文ハ五ゑ合点でありべきさら弟子大師の捨閉各地目
蓮上人れ念仏ゑ用律宗ゑ戒法親鸞れ破戒ゑを
ゑ罰もるく出家堅固れ人臨終ゑ三ゑ来迎せるきるる
ゑ内證不埒れ僧尼も有とやい世〳〵ゑ忽大地さけて地
ごゑみ義ハ虎の皮まて次れ車引しるを終ゑ実録ゑ
見〳〵ぞきう〳〵みゑ〳〵今の世ゑて男〳〵何事すり仏法

やはりどゑ〳〵るへたゑ〳〵年毎の月日をあひ終れ
何千人ろ衣れこのげまて渡せ〳〵声ゑ色持て証たく
徳ゑ六鉢地蔵ゑ成就を藤屋れ伝某教代の祈祷
所行徳暴備れ法師とまれ私女房ゑの子留ゑ
行そも強対ゑ〳〵る〳〵ぞ大熱さ〳〵正氣とうるゆる
の留も代家れ北の軒ゑ屋ゑ手代与平ゑ娘ゑきて
死をすく〳〵いで有べきゑと同見ら一家代司ゑれ
身心正〳〵ゑゆくの災ゑとあ見べきゑそきゑ
ていおゑるゑどとく〳〵〳〵〳〵内方れ留ぎ
らひいけ人乃前生芝居れ木戸番ゑるゑ二歳れ

親のかたこころかなしてたちまちおびく驚風とるて死せしが火葬にせしゆく今生きて大熱来雷と驚きらかの又ためよかちしい手代馬方男いしけちに対ハ又もなく毋をのく行来もちくハ方かしてと旦那五のやしうひふを伝ちぐこいろ世こ有の月のわがうけよあきそそてのそ寅の親ぢくうう秘成人乃其後与平始終と見届ず。ひまと出くくるたくく火勤の症ハて死ろう雷ハ屋ハ鬼ハきバ黒く五行ハそい水たう馬方考黒ものと好水ものるふ方としづか与平ゞ討を

誕言とかりひろのうこそぬうく梵天帝釈のあり
まこと加くかるいづちとのて仏家ことび入
戒ふうのくく人ぐと踊教べくとふ龍を伸ひ黒
雲にうちめをいづちハこうるゞ人種ハ有ず馬方
が死亡とうこのめ極楽へやる迦善ハ経陀羅尼内方の
馬とやる加持らいすけハ護摩彼是ハ礼くて遣
らもハ念入ハ茶とたうとこ遣ず手をとくこう
迦頭昔を今もいくぢくうや錫杖本記ニ神めいとく
と信とと受めひ備初と受あうとと有のをすくと
天御神ハ教ませめ内清浄と心正直ニ外清浄

と身持正しく内外清浄なる人は番をかちぐ生霊
死霊はなるべくもたなく抓捏を手とそぐ祈禱遊善
の金銀もいとべ百万遍はなはだしさを空ぐ拝法乃
訪は如此所聞食天波罪咎崇波不在止被清賜低疫
病毛無怨欲毛無罷神悉久和順志八重乃雲霧手神
戸之風丹吹拂比生霊死霊乃忘念波利劔鳥以天打
振事之如久氣吹失賜日之守夜之護丹守賜と
あり。神書は神は法人は魂人は諸神乃性なり。
神は我家は神なり元来人人固有の神なり人欲
の私は掩根は国底津国はなれ入人唐みを天竺は

も生どうけぐ泰神国は生今月前は衣食住神徳
はあるべとなるものなり神恩とはなれ神祇は
背は奉る孫は業作と見えや人名は徳はは天地のしるべ

○上手

萬は事況は上手とはいひとなれは個変ま
で遥はなびく有。其上手となる行さるなれ人の様
は仕宝〳〵債と心やすく費ひきてはすとはいはぬ。
武は道も楠正成は古今の名将といへど今は世は
生を合さるべ又仕方ちがべ〳〵。むしるべ人を

神佛に祈てりゝ〜るせ〜とうや。近年ハゆうゐれ
人のるとを養ゑまる。先祖ゆりほゝ〜ゝ血脉とそ
あうでとゝをゝ〜ゝえむ〜のそゞ〜れけゝ。今
を神にまゝでる式さづけさせゆゝと祈ハ道理れ至
極なり。神の御措に寶粉れぼうゝんる天壌と
無窮との神勅ゆ〜せたゞりゝをけゝ。今上大皇帝
ゆでつたり〜せゆゝ〜ハ事。思をなゞ〜月れ前に見ゆ。
唐土ゆとうてとめ〜ゆ。諸道れ中ゆ神道乃
家上ゆるる式ゆゝ〜ゝ誠の至て祈叶ハ納受ゆれと
ゝふるゆ。六根清浄れ被に諸願成就とゆゝ。

さゝび男女にゝ〜ゝ心のまゝれるとゆゝ〜色ゆひ。
行ゆゝ〜もいとめでゝ〜ゝ。観音地藏に祈てゆと
ゆゝ〜ゝゆる古ゆ偖ゝを哭〜ゞ聖德太ゆれて
とゝれゝうゝとゆて〜ゆ縁ゆ〜せゞと祈ゞひゆひ
るゝつゝ〜草ゆを見ゆ。佛ハ出入息とゆゝね世
なるゝ出離〜と教ゝ〜ゝとゆゝふゝゆとゝぶけ
ゝゝ〜佛達ハいゝに取遠〜ゝゝゝ〜ゆゝ。親と父
るゝと生ゆて〜ゝゝゝけ〜ゝゝとゝゆれどそゝハち
でゝ迴遠〜。佛本行集經に親るハ三界れ迦
説ゆゝをゝび釈那を速佛道に入ゆゝ〜ゝ方ゆゝ

さてや生死事大無常迅速へいかゝ

○河豚

河豚を好て喰人あり氣味甘温虚を補温を主腰脚を理し痔を去虫を殺筋骨を和をといへる是わづかに能豚乃ごとこのごとくゝ沢菜種食類に何れども有べし宗奭この曰大毒有修治法をしらざる人を教をと藏器この曰海中に者大毒有江中乃者ともに沢と珍が曰荊芥菊花甘草陶子鳥頭ゴうあり豚と喰て其一品ところ〳〵に菜とのひくらべ

藏器が曰肝及子に大毒有口に入へ舌と烟腹に入へ腸とたゞゝに此のごとくもろ〳〵解きべきもとといへる和る人豚と喰て立所に中風せし有延宝の比江州大津中の保といふ所に奥や源五兵衛といふ者有ちゝ〳〵あるゝ河口といふ町に源兵衛といふ人有〳〵老ごとく豚と好老母のゝ為に式幸と源五兵衛に云ければうとしたゞゝ念を入料理し持まゝに折節老母ゆゝきいぶりやあやしゝとのゝんと制せしまゝ是非なく返しくるゝと源五兵衛持てゝ人に美味して食しけるが家内四人有〳〵源五兵衛夫婦

三人忽死ス。ナリ。十二三ハ男子有ケリ。食セサレ〳〵バ
近キ年マデ存命。世ニ住ケリ。川口浦ニ漁ヲスルモノ
豚ヲ一生ヨリ飼ヒ養ケリ。其時荒ケレバ興ニ掉ケル
小屋ニ入レ置ケル無常所ヘ送レ〳〵ト吊正ク見テ有ケル
京二條新町乃あたりにて豚の毒ニ中死セ〳〵すさ
まで年経ぬるなり。知人ハ多ク〳〵心ざし〳〵あるん人ら
る縁ニ傳ふくいしげれるなり。双ビ合せる
中ヘ入てそむく人ハまきるべ〳〵。性命ハ天ニうけて
大切なるものなり。口ニ味有ことく喰ヒ上ル愚ケリ。
但豚のごとくハ不養生ヒとる人有。飢

極リて飽ほど食し直ニ寝。大酒房事度なく。青
梅乃枝ニ有を中ほうくいとりとびつゝ云ニあらざ
ればハ知行を盗ニ同。るゝてハ乃抱もべき新
乃外抱とする。いとうの不忠不孝なり。神前ニ
奉てハ無病延命とこそ祈ハ。神祇ニ難題とこそ
祈ら者ハ不養生〳〵
るとゝもるハ身と大事ハ
所ハ君又乃命ニ背ざる所ハ愚
身心ゝもるハ所ハ天照皇太神乃宣人波則天神乃種物
奈利須静謐心波即神明理莫傷神體ヲ之神勅

に合ふ神勅に合ふ所は即是唯一宗源の神道者なり

○ 薬師

医の医たるいまもまた。偶中傭医の輩みな。薬師の仏前に詣で念珠たゞ〳〵帰依渇仰し侍る人あり。何事と祈ぶやいま王孫賈の其奥ふ媚よとむし後竈に媚よといふハ何と謂事ぞと問しに孔子曰然らずと罪と天に獲ふれハ禱る所なしといとたふ〳〵日本記に大己貴命少彦名命とかと戮力。心と力を天下を経営し。復顯見蒼生の為に則其

病を療の方を定めと有。貝原氏の詞に今思ふ乃人乃口傳ふ有ところの薬唐の方書になれハ正〳〵二神の定めしもの〳〵遺風なりと書き〳〵さも有べし。蜂乃さ〳〵たるに牽牛花乃葉をとゝそ傳脆贅に水蚤虫を傳の類世にあり〳〵さるに八十二神を弓敬〳〵奉医道の冥加を祈ハ理の中道なるべし。出離生死を祈に釈迦弥陀の方をもとめるるふつようなり。大抵薬師といふ名をもつむなるべ〳〵法華経に薬草喩品を説たまとも。上草中草下草大樹小樹悉皆成仏の事にまた〳〵飯薬の薬あり〳〵薬師経

に衆病悉除乃文有。此誓願不実ならで佛力あや
まさむ。病人一人をたすくべ。医者の産業いふまじき。
医家の為薬師佛ハ正しく恐あらむや。和方ハ孫子
邈が千金方渡て後絶しとかや。今唐土の医書も
行れさ上揃又医ハ儒を兼事勿論なり。儒ハ釈迦
流乃道を用貴や。假名書を持遊童も知所なり。
かりそも薬師を信仰せらるゝ人ハ天竺流の医術
とやいはくらきんいふべし

○延壽院

古延壽院法印道三ハ近代乃名医とひにのくき
ぞある月四十にいたらぬ後家のあるいとまあるを。法
印ハ此月まのさ緩怠なくさうしひとりむせがまで
當年十九の男子あしき病に取付。親乃身ハなり
さ。父ハ十一年さきにうれ人のうぢそに入てうし一人の身ハ
わくはたをけとおぼしめし忍きなぐらは薬をあされ
あべ生しれば恩なくやく消とうこのむ。道三心を
脉腹とも見。薬とあそべし。病人ハきやうしやとたよ
孫らまうしふ。いや疾ハ中をまさろしやとへし。きる
がんたくまし生つき力を人よりいかきり。是までハ

炎一丸茅一どもをぬ分れ十七乃春より[illegible]
うれするゐ〳〵盜とい〳〵武勇〳〵いろん仕ても茅
ヨヤさでもちゞい〳〵よれりもこのごろそれなぶく
もうゞ〳〵こゝ私心内そうゞ〳〵あぶり
や〳〵せのひてとさゞ〳〵と法々ふびんのもとうる
の医業ゑを及ぶ自茅個合〳〵あゝらき〳〵と三
どいぶれゆうゝそきより月ゑ四五どぶく小半茅
もま〳〵ぶのげてすゝとゝあぶく仕おとぶれ
れ事と法卯とい〳〵びゝ伏拜ゝうゝし〳〵礼と
のべているゝゝ初ゝを寄る達不審せゝき〳〵。

なぶく〳〵せ〳〵上へ詰べ〳〵たゞ肺金の大寒部あり
い〳〵ん〳〵心氣とゝびゝあなべ必噴鼻出べ〳〵と思ひ
よ〳〵までゝゝと云ゝ〳〵門人乃磨〳〵舌とゝるいゝ〳〵

○理丸高下

理ゑ善悪高下有盜ゝるゞの無理いゝれゑ親とゝし
ゝゝべゝさゝとゞなれゆゝとゝいゝべゝゞゞ〳〵理れ有ゑ似ゝ
ゝひ〳〵ゝ傳丸郎とゝゝひ〳〵男祇園れ杜地へ月毎
ゑ出て神道の黍と語伝人ゑゝ〳〵ゞ塵芥れゞ〳〵
放言〳〵出家へとゝ西夫乃ゝ〳〵ゑ悪口〳〵白眼付

て詞詞をぐ〳〵も関人群集して是理の當然とし
ゆくりさいつころ乞食どもを集るきのゆいうる
吉月とも紙入ところ〳〵がよれ物有といひとい大
悪日あれ六十もぐゆ町法けて加ら〳〵そろ〳〵侍て連
法けたろしまで七町法けて加ら〳〵そろ〳〵侍て連
有取うくとのそろそろそろあるあひろ乞食もたい
ていそいろ〳〵ぞとい物ふ十年月ゆとそ〳〵かまれ
ロくみそゆくと四十ぞろの男雲吞ろ〳〵がゆそ
乃氣を見まろしそちそちハ盗をそろゆや我ハ盗を
も絶ば乞食いせもとと云しまたよとれ理ろ〳〵

むやゆ人の志乃清さそろちそろそろを劔術
みと同ゆぐの器用同年教れいてなをハさそろ
かして理乃高流少勝とこのやゆ又ぐ〳〵く移りいと
ほがなら理を好てゆ人あゆ神乃勅を將除
萬言之雑説而舉一心之定準即配天命而
掌神氣とゆぐ其本一とほゆれそろとろ
理を取べきまそろ

男女風の傳上巻終